

DigitalCamera倶楽部

SEP 2016
Vol.129

長良川の鵜飼いを見て来ました

長良川の鵜匠の正式名称は宮内庁式部職鵜匠、日本で唯一この肩書を与えられているそうです。その技は長良川鵜飼 6 人、小瀬鵜飼 3 人の鵜匠から代々世襲で親から子へと受け継がれているそうです。

今回は特別に我々の乗った船を目掛けて、5 艘の鵜飼い船が一度に見せてくれる、総がらみの企画でした。

ストロボを使うと、鵜が驚くかと思い遠慮しながら写しましたが、何も問題はありませんでした。思ったより船足が速く、フレームに入れるのに苦労しました。



金華山の山頂に、岐阜城 50 年も経つだろうか、名古屋に出張のおり長良川の畔を歩いた、今日と同じ真夏の空にはトンビが輪を描いていた。



マンホールの蓋にも鵜と鵜飼い船がデザインされていました。





鵜匠の一人、山下哲司さんが我々の船に自分の船を寄せて、鵜飼いの歴史から鵜の訓練など、色々お話を聞かせて貰いました。

20 cm くらいの鮎なら 15 匹くらい一度に喉に入るそうです。鵜の体温が高く鮎が傷むので、早めに吐き出させるそうです。

鵜で漁った鮎は市販の 10 倍くらいの値が付くそうです。

ぎふの庄ながら川のうがひとて、よにことごとしう云ひのゝしる。まことや其興の人のかたり伝ふるにたがはず、浅智短才の筆にもことばにも尽くすべきにあらず。心しれらん人に見せばやなど云ひて、やみぢにかへる、此の身の名ごりおしさをいかにせむ。

おもしろうてやがて悲しき鵜舟哉 芭蕉



鈴木瑠美子 のページ

白馬、梅池自然園撮影会（6月）にて（その2）

梅池からの山並み



安曇野の郊外



茅葺の茶屋



ハイジの世界

水車が看板の茶屋



鈴木義則 のページ

庭に咲いた花々、色鮮やかです

初夏を飾る花





荘厳さを奏でる
白色のグラデーションと
黄色の花芯

牡丹には無い簡素な
佇まいの原種芍薬



花びらに散った花粉
も鮮やかです

五味渕アイ子 のページ

短い夏に命輝く(庭)

トケイソウ



ポーチュラカにハチとアリ





佐藤重信のページ

津久井湖 水の苑池
クレオメが一面に



プレジャーフォレスト





8/21 愛川町勤労祭は
にぎわっていました



8/21 9号台風前日

笹原虎夫のページ

6月26日～27日 白馬撮影会（風景編）

【ホテル グリーンプラザ 白馬】



アルプス風の宿
（ホテルグリーン
プラザ 白馬）

【大出の吊り橋】



吊り橋が新緑に映えて
いました



【アルプスの残雪】



六月の末でも残雪に逢
えました

【道祖神】



白馬・安曇野地方の優し
さが溢れています

別府 28 - 8月のページ

平塚の七夕飾り



2色並んだハイビスカスの花



座間の向日葵

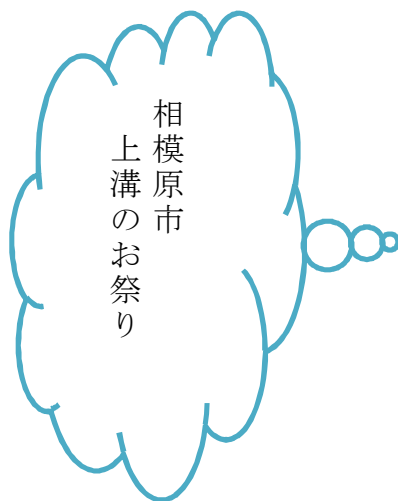


白岩のページ



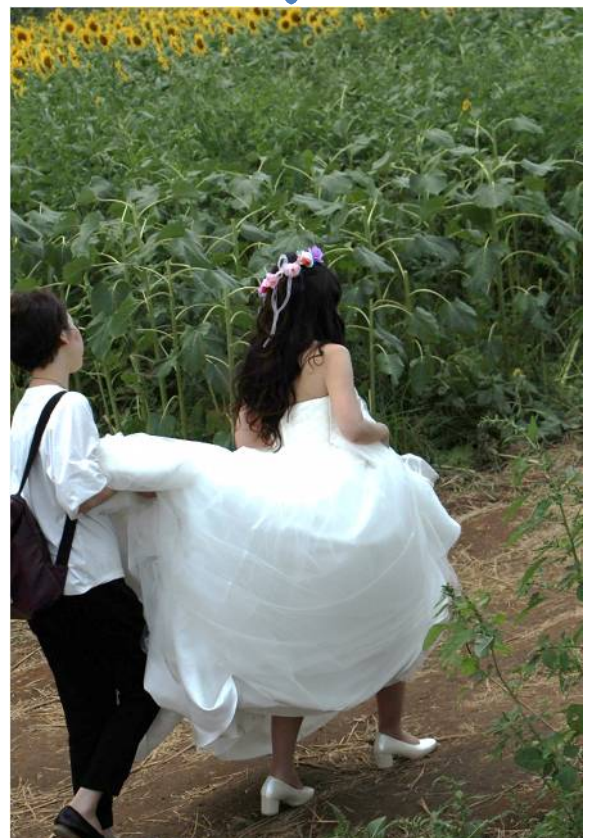
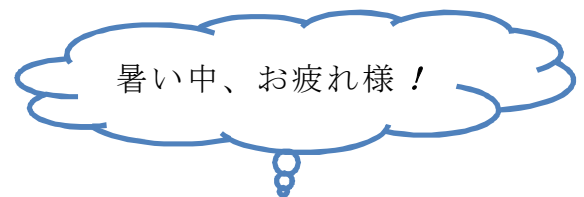
昭和記念公園の
ーコマ





大川のページ

座間のひまわり畑



富貴蘭（良い香りを漂わせます）



パッションフルーツの花

